VARILITE 製品取扱説明書

バリライトシーティングシステム

【車椅子用バリライトクッション/バックシステム】

安全に製品をご使用になるために、この取扱説明書を必ず読んでから、
本製品をご使用ください。

重　　要
この製品を供給される販売店様へ： 必ず、このマニュアルをご使用者ご本人または、介護をされていらっしゃる方にお渡しください。必ず、ご使用方法・メンテナンス情報を提供してください。
この製品のご使用者様、または介護をされる皆様へ： 必ず、ご使用前にこの取扱説明書を読み、常にいつでも見られるように保管してください。

もし、ご不明なことがございましたら、お気軽に下記までお問い合わせください。

株式会社ユーキ・トレーディング　福祉機器事業部

電話番号０３－３８２１－７３３１　info@yukitrading.com

⚠ 警　　告

- **車椅子上でクッションやバックサポートを変更すると、車椅子の座面の高さ、背シート、フットサポート、アームサポートなどの調整が必要になる場合があります。シーティングに詳しいセラピストなどへ相談し、ご使用者に適合した車椅子・クッション・バックの調整を行ってください。**
- **特に骨盤の骨突出部周辺の皮膚チェックは、定期的に規則正しく皮膚に赤みがないかどうかを観察してください。ご使用者に合ったチェック方法などは、シーティングに詳しいセラピストへご相談ください。**

⚠ 全てのVARILITEシーティングシステムのためのご注意

- VARILITEの座・背クッションは、必ずカバーを付けてご使用下さい。
- カバーはクッションを穴あき・汚れ・本体側生地の磨耗から保護するのに役立ちます。
- VARILITE座・背クッションを先のとがったものや火のそばに置かないで下さい。
- クッションの上に、先のとがったものや重いものを乗せないでください。
- 長い期間、極端に暑いところや直射日光のあたるところに保管・放置しないでください。

お買い求め頂き誠にありがとうございます。VARILITE(バリライト)座クッションは他に類を見ない車椅子用クッションです。ご使用者の状態や好みに合わせた調節が可能です。まず、正しい姿勢を保てるので効率的な動きを可能にします。また、ウレタンとエアーによる分圧効果が高いので皮膚組織保護や振動吸収にも優れています。そしてものすごく軽量な車椅子用クッションです。ご購入の VARILITE クッションの性能を完全に引き出す為に、次の使用説明書をよくお読みの上、保管して参考になさって下さい。

サイズの確認：身体寸法に合わせ幅・奥行が合うものを選択して下さい。
サイズが合わないと体圧分散効果が減少するだけでなく、安定性が悪くなります。幅、奥行を合わせて使用することでクッションの効力を最大限発揮できます。

バルブ位置の変更：座クッションは、最初バルブの位置が右利きの方用にセットされています。バルブの位置を変えるには、カバーのチャックを開けてクッションを取り出して下さい。クッションを裏返してバルブが左側に来るようにしてカバーの中に戻します。カバーのファスナーを閉める前にバルブがバルブ用に開けてある穴の中にきちんと差し込まれているのを確認して下さい。
（ご注意：本製品はカバー無しでは絶対に使用しないで下さい。
クッションの破損の原因となります。尚、リフレックス、ゾイド、プロフォーム NX、メリディアン、メリディアンウェーブはクッションの形状からバルブ位置の変更はできません。）

クッションの調整：
(1) 【全てのクッション共通】最初にバルブを開けてクッションを膨らませます。（自動的に膨らみます）個体差がありますが大体 30 秒～2 分程待ってからバルブを閉めます。
※リフレックスは自動で吸気します

(2) 【全てのクッション共通】 VARILITE クッションの「FRONT」の方を前部にして車椅子に置きます。

(3) 【全てのクッション共通】クッションを敷いた後一番奥まで座り、バルブを開いて臀部形状が出来るまで空気を抜きます。
※クッションにより調整方法（空気の抜き方）が異なります。下記 a)～e)に照らし合わせて調整を行ってください。

a) レギュラーバルブ（ストレータス・エボリューション・ゾイド）の場合
バルブを約半回転させ 4 秒前後（体重等により個人差があります）空気を抜きバルブを閉じます。
目安として座骨の下に手をいれ、1～2 ㎝位浮いている状態が好ましいです。
※空気の抜きすぎにご注意ください。骨突出の大きい方、底付きの心配がある方は空気を多く残したセッティングにすることをお薦め致します。

b)　PSV バルブ（ソロ PSV）の場合

PSV バルブは閉じている状態から約一回転バルブを開くとバルブの窓に数字の「1、2、3」が表示されます。「1」は一番空気を残した状態のセッティングで、「3」は一番空気が少ない状態、「2」はその中間になります。数字に合わせ空気が抜けきるのを待って（およそ 10～20 秒）バルブを閉めると平均的に適圧になります。基本的には「2」をお薦めしております。

※状況に合わせてお好みのセッティングに出来ますが、特に「3」を使用する際は底付きにご注意ください。

c)　前後 2 バルブ（メリディアン・メリディアンウェーブ）の場合

メリディアン・メリディアンウェーブの場合は前後の空気室をそれぞれ調整することが可能です。前側の空気室は黒、後ろ側の空気室はグレーのバルブになっています。調整方法は

①前側の黒いバルブを約半回転開き 2 秒前後したら閉じます。

②前（もしくは横）からご利用者のﾍﾞﾙﾄﾗｲﾝ（もしくは大転子等）を見ながら後ろのグレーのバルブ一回転ほど開き、ﾍﾞﾙﾄﾗｲﾝが 1～2cm 下がったところでバルブを閉じます。

③前と後ろの段差をなくすために最後に黒い前のバルブを半回転させ 1 秒ほど空気を抜いて閉じます。

d)左右 2 バルブ（プロフォーム NX）の場合

プロフォーム NX は空気室が座面後方半分で一体になっており、中で左右に部屋割りがしてあり、それぞれの空気室の調整が可能です。また、ベース部の加工が可能な特殊クッションで、骨盤の左右差、回旋、その他特殊な状況下での座位保持の為に使用します。その為**必ず姿勢の評価を医師、又はセラピストの方に受けてからご使用ください。**

※空気室が小さい為底付きにご注意ください

e)　自動調整バルブ（リフレックス）の場合

リフレックスの場合は自動調整バルブが内臓されているので、荷重がかかっていない場合は自動的に膨らみます。膨らんでいる状態でご利用者に一番奥まで座って頂くと、空気が自動的に抜け、底付きが起こり難い位置で自動的に止まります。（微調整は出来ません）

⚠ リフレックスご使用上のご注意

- 赤いプラグは洗濯の際にのみご使用ください。故障の原因となります。座る時にプラグをバルブに差し込んでいると空気の調整が出来なくなります。
- 本体後方についているバルブを持ったり、引っ張らないで下さい。バルブが故障する恐れがあります。
- 本体にカバーをかける際、バルブが折れ曲がったまま面ファスナーを閉じないようにご注意下さい。

×

○

バルブ

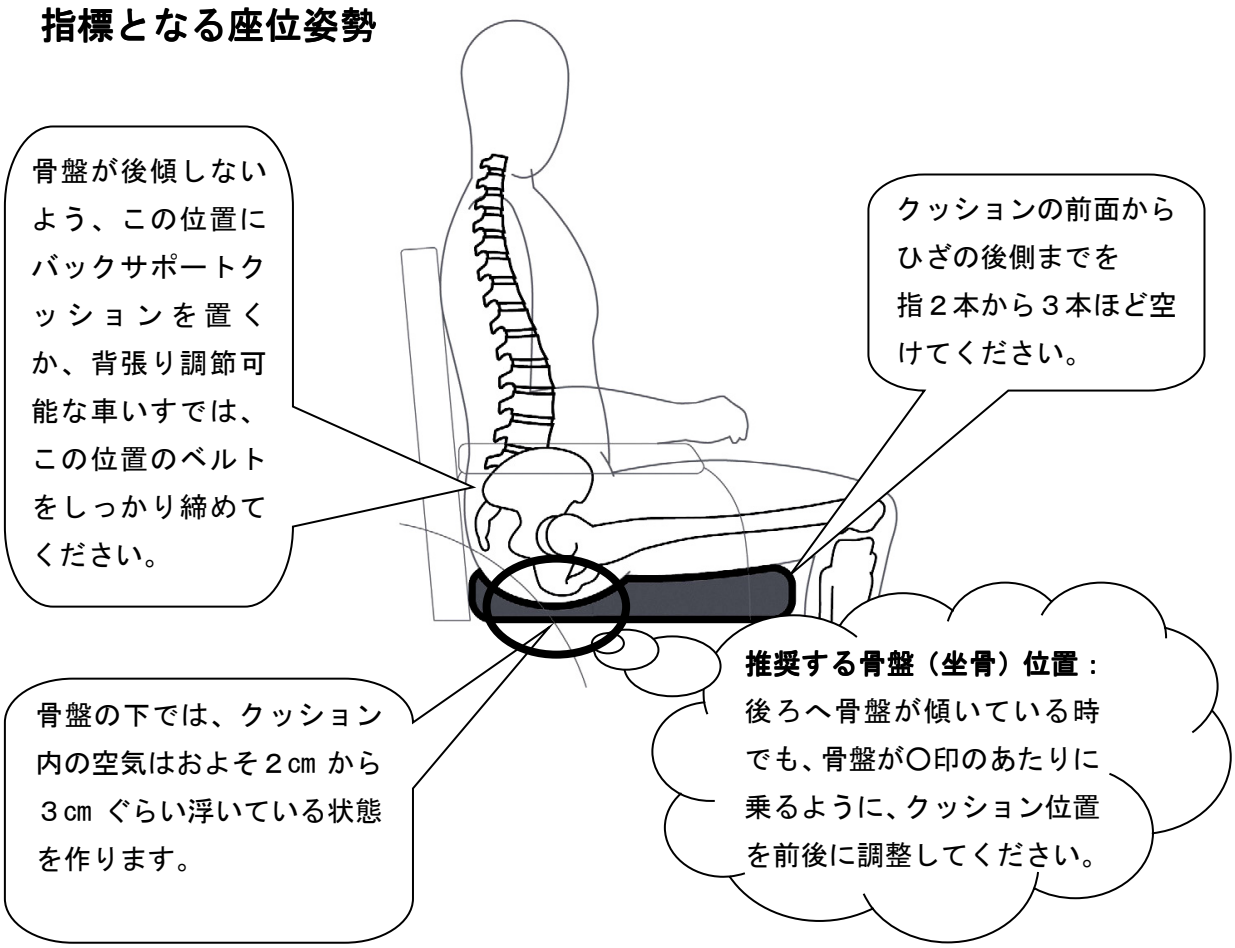
(4) 【全てのクッション共通】底付きもしくは調整不備の際。
上記(1)からやり直して下さい。

(5) エボリューション、プラフォーム NX のウェッジ
上記のクッションには安定性を高める為、クッションの前方下にクサビ形のウェッジが配置されています。ウェッジはカバーの内側に面ファスナーで固定されています。用途に合わせて取り外し、加工が可能です。

(6) 【全てのクッション共通】 良質な座位姿勢を保つ為の注意点
新しくクッションをお使いになる方や、他のクッションから VARILITE クッションに交換すると、車椅子を調節する必要が出てきます。療法士または正しい装着法の知識を持った人と相談される事をお勧めします。身体寸法に合わせてバックサポート、フットサポート、アームレスト等の位置をチェックして下さい。

ご注意：新しいクッションの使い始めの時は、皮膚に赤い斑点の圧迫痕が出ないかどうか、医師や看護士、セラピストの検査を受けながらお使いになることをお勧めします。検査は使用開始から 5 分後、数時間後、丸 1 日等徐々に使用時間を増やして確認して下さい。
VARILITE クッションは座面の圧を軽減できるように設計されています。しかし、長時間の座位姿勢を取られる際には床ずれ（褥瘡）リスクが伴います。定期的（少なくとも 2 時間に 1 度）に座面の圧を軽減する為の体位交換（プッシュアップ等）が必要です。また、ご利用者の健康（栄養）状態や、湿潤、患部が清潔に保たれているかによりリスクが起こり得る状況が変わりますので医療従事者の方に相談しながらご使用ください。クッションの膨らみ具合は毎日チェックして下さい。座っていて空気が抜けていく、バルブを閉めているのに使用していない状態でクッションが膨らんでくる（リフレックスを除く）ようでしたら、販売業者か株式会社ユーキ・トレーディングまでお電話ください。03-3821-7331

指標となる座位姿勢

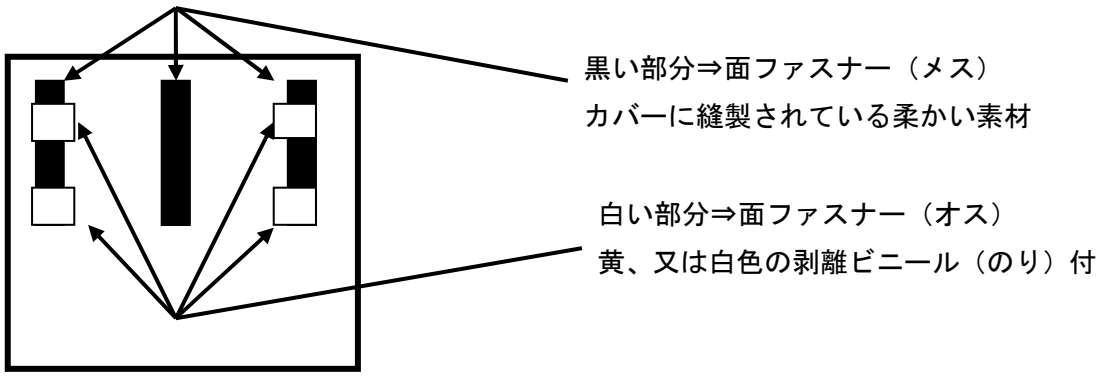


骨盤が後傾している方：車いすの奥まで深く座れない方は、骨盤が推奨される位置に来るよう、クッションを前方にずらして位置を調整してから、お座りください。このとき、クッション内にソリッドインサートパネル（別売り）を挿入したり、車いすの座シートにベルクロテープなどを縫いつけ、クッションがズレないように固定されることをお勧めします。

※　ご注意：カバーの底面に黄（白）色い剥離紙が付いた５ｃｍ角のオス面ファスナーが４枚、メス面ファスナーに着いています。通常はこのオス面ファスナーを剥がしてからご使用ください。剥がさずにご使用されますと、底面の滑り止め加工の効果が落ちます。オス面ファスナーは、次ページの使い方をご参照ください。

面ファスナーの使い方

座クッションのカバー底面には、下図のように面ファスナー（時には、マジックテープ・ベルクロなどと呼ばれています）が付いています。



クッションカバーの底面

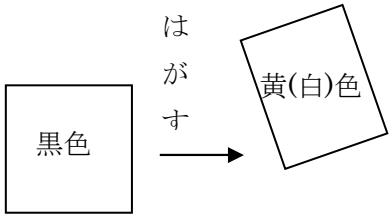
● 通常の使い方

カバーの底面に付いている4枚の「面ファスナーB」を外してから、座クッションをご使用ください。
カバー底面には、ポリウレタン加工が施されており、ご利用者が座クッションに座ったときに、クッションが前方へ滑りにくくなっています。

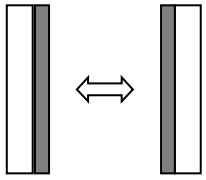
[ご注意] 「面ファスナーB」を外さずにクッションをご利用されると、接着面に付いている黄(白)色の剥離ビニールで滑りやすくなりますので、必ず外してください。

● 「面ファスナー（オス）」の使い方：

1. 車いす座シートに、「面ファスナー（オス）」が縫い付けてある場合：
   クッションカバーの底面に、「面ファスナー（メス）」が縫製されていますので、そのまま車いすの座シートに載せていただければ、クッションは強く固定されます。
2. 車いす座シートに、「面ファスナー（メス）」が縫い付けてある場合：
   4 枚の 50 ミリ角の「面ファスナー（オス）」の黄色い剥離ビニールをはがし、接着面同士を張り合わせ、両面とも「面ファスナー（オス）」を作ってください。4 枚付いていますので、2 組作れます。
   この 2 組の両面ファスナー（オス）を、座シートの「面ファスナー（メス）」とクッションカバー底面の「面ファスナー（メス）」の間に差し込むことで、クッションは座シートに強く固定されます。



黒い 50 ミリ角の「面ファスナー（オス）」から、黄(白)色の剥離ビニールをはがす。



2 枚の 50 ミリ角「面ファスナー（オス）」の接着面同士を張り合わせる。

「面ファスナー（オス）」のご注意：

剥離ビニールをはがし、車いすの座シートに直接、貼り付けないで下さい。
時間が経つとはがれます。また、座シートに付いた接着剤は取れませんので、お止め下さい。必ず、面ファスナーの使い方を読んでから、ご使用下さい。

カバー：まずクッションから取り外して、洗濯ネットに入れ、洗濯機で洗濯できます。
洗濯後は、陰干ししてください。（６０度以下のお湯または水で中性洗剤をご使用ください。）
乾燥機はカバーの形が変形する危険性がありますので、使用しないでください。
　※　クッションにカバー掛けする際、前後左右の向きを必ず確認してください。
本体：まずクッションについているバルブを全てしっかり閉じてください。リフレックスの場合はクッションの後側にある丸い空気開放口に、赤いプラグをしっかり挿入してください。
　※　クッション内に絶対に水が入らないようにご注意ください。クッションの中に水が入ると充分に膨らまなくなる危険性があります
バルブが閉じられているのを確認してから、クッションを石鹸又は中性洗剤を用いてぬるま湯で手洗いし、乾拭きした後に陰干ししてください。再び使用する前に、すべての部分が乾いていることを確認してください。

＊バルブを開けてもなかなか空気が入らない場合：
臀部の幅より小さいサイズや、空気を極限まで抜いてのご使用をしますと、バルブを開いても戻りが悪い場合があります。これは密度の高い特殊フォームを使用している為、材質のへたりではなくフォーム内の気泡がくっついている状態です。このようなときは、
(1) バルブを開けて 2 分間経ってからバルブを閉めてください。
(2) 前側からクッションを丸め、後側へ強制的に空気を送り込みます。
(3) 完全に後側が膨らみましたら、クッションを広げもう一度バルブを開きます。今までより空気が入ります。
(4) 全体が復元するまで(1)～(3)まで繰り返して下さい。
(5) (1)～(4)でも入らないときは、口から息を吹き込んでください。このとき、唾液などの水分が中に入らないように気をつけて下さい。
(6) 上記のようにしても空気が入りにくいときはご購入された販売店、又は当社までご連絡ください。

パンクかなと思ったら：

ご利用者様がご使用中に、クッションから空気抜けが感じられる場合は、穴あきの恐れがあります。そのままでのご使用は危険ですので、下記の方法で調べてください。

（a）**視覚の点検**

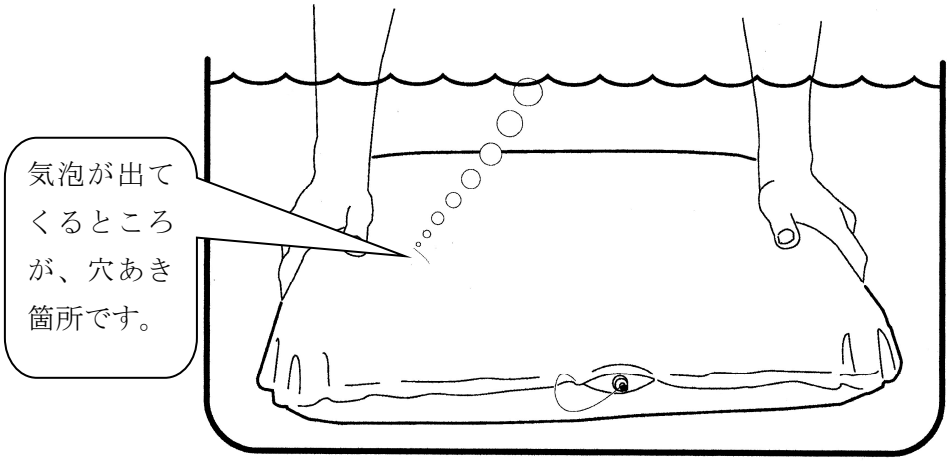
まずは、クッション・カバーを取り外して、完全にふくらんだクッションとカバーに鋭利なものが刺さっていないか、視覚的にご確認下さい。穴あきが確認されたなら、販売店または弊社へご連絡下さい。穴あきが見つからないときは、下記の水中テストを行ってください。

（b）**水中テスト**

1. 大きい流しまたは桶に、10～20ｃｍ位の高さまで水で満たす。
2. クッション・カバーを取り外してください。
3. バルブをしっかり閉めてください。リフレックスの場合はクッションの後側にある丸い空気開放口に、赤いプラグをしっかり挿入してください。

　※　クッション内に絶対に水が入らないようにご注意ください。

4. クッションを水の中に漬けてください。
5. クッションが空気漏れしていれば、穴あき箇所から小さい気泡が上がってきます。
   裏表などをひっくり返して、よく観察してください。
6. 穴あき箇所が見つかりましたら、×・〇などの印を付けてください。そして、早めにクッションを提供されている会社、またはご購入いただいた会社へご連絡してください。



アイコン　バックシステム

バリロックハードウェア

This manual explains how to install, operate and maintain the Icon Back System.

VARILITE® Installation Instructions

アイコン　バックシステム

この取扱説明書は、下記アイコン　バックシステムのタイプに適用されます。

Low

Mid

Tall

Deep

© 2013 Cascade Designs, Inc.

ご使用される前に、本取扱い説明書を読み、理解した上で作業を始めてください。
本製品の誤った車いすへの取り付けやご使用は、重大な事故につながる危険があります。

⚠ 警告

VARILITEアイコンバックシステムの取り付けと調節は、公認されたディーラーまたはシーティングに詳しいセラピストによって行って下さい。
車両の中でのご使用は、適切な制御器材を使用されていないと,
重傷または死にいたる場合があります。

●VARILITEアイコンバックシステムのハードウェアが、故障・部品不足、破損している時は決して使ってはいけません。即座に使用を中止し、修理を依頼して下さい。

●背当ての加重制限を超えて負荷をかけてはいけません。

●22インチ（55cm）未満のシステムの最大ユーザー重量は、300lb(136kg)です。

●ご使用される車いすの取扱説明書による荷重制限がバックシステムより低い場合は、低い制限を優先して下さい。

●車いすの荷重制限を超える原因となるウェイトトレーニングをしてはいけません。

●車いすの荷重制限を超える日常生活や他の活動をしないで下さい。

●バックシステムをつかんで車いすを持ち上げようとしないで下さい。

●バックシステムは専用のカバーをつけて使用して下さい。
専用カバーは難燃性の材質でできています。
カバーを使用しないでバックサポートを使うと引火の危険が高まります。

●アイコン　バックシステムを改良したり、本マニュアルにない取扱いをしたりしないで下さい。保証対象外となります。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

自動車の中でのご使用

アイコン　トールバックとディープバック

警告

このバックシステムは、ANSI WC19またはISO 7176-19の性能必要条件に対応する車いすベースで使われるとき、ANSI WC20/vol 4の必要条件を満たし、座席装置の安全な使用状況で、自動車車両のためにISO 16840-41に適合しました。正面の衝撃テストで、代理車いすベースと複合型Ⅲ小型の男性ダミーモデルが使われました。

ANSI/RESNA WC18またはWC19に従ってうまくテストされなかった、いかなる姿勢保持装置とベルトは、自動車両における制御として頼らないで下さい。自動車両の中での適切な器材での制御を使わない場合は、重傷または死にいたる危険があります。

アイコン　ローバックとミッドバック

警告

このバックシステムは、ANSI WC20/vol 4の必要条件を満たしていません。座席装置の安全な使用のために、自動車両の中での適切な器材として、ISO16840-4に適合しません。
重傷または死にいたる危険がありますので、自動車両でこのバックシステムを使用しないで下さい。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

車いすとの互換性 および 装着上の注意

⚠ 警告

VARILITE アイコンバックシステムは大部分の車いすに適合するようにデザインされていますが、次の点に留意して下さい。

このシステムは、車いすの背パイプの直径が1インチ（約25.4mm）以下の車いすだけに使用できます。

このシステムは、背パイプが丸い形状の車いすだけに使用できます。

スタビライザーバー付きの車いすでも、システムの機能を損なわなければ使用できます。

背パイプが丸く、直径1インチ（25.4mm）以下の車いすのみに使用して下さい。

適合しない器材を使用すると、部品の破損だけでなく深刻な大怪我の原因になりますのでご注意下さい。

⚠ 警告

スライドキャップは必ず閉めてください。
開けた状態でいるとスライドブラケットがホルスターから外れ、バックサポートが突然落下して大怪我をする恐れがあります。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

車いすとの互換性 および 装着上の注意

写真1;誤った例（スライドキャップが閉まっていない。）

写真2：正しい例（スライドキャップが閉じている。）

車いすとの互換性

警告

示されたケインブラケットシムを使わなかったり、取り付けなかった場合、
装置破損や思わぬ事故の原因となります。必ず指定されたシムをご利用下さい。

ケインブラケットは、直径1インチ（25.4mm）の車いす背パイプ用にサイズが設定されています。
シムは、直径1インチ（25.4mm）以下の車いす背パイプに対して用意されています。

背パイプの該当する高さにシムを置きます。その上から、ケインブラケットを被せてください。
シムのサイズは、下記のチャート表から選んで下さい。

ケインブラケットシム適合表

背パイプ直径	シムサイズ	ハードウェアキットに含まれていますか？
7/8 in. (22mm)	1/8in. (3mm)	YES
3/4in. (19mm)	1/4in.(6mm)	YES

警告

シムを取り付ける前に入念に背パイプをきれいに拭きあげてください。

グリス、油や他の残留物が背パイプに残っているとシムが滑りやすくなります。

シムが滑ると、装置破損や思わぬ事故の原因となりますので、充分ご注意下さい。

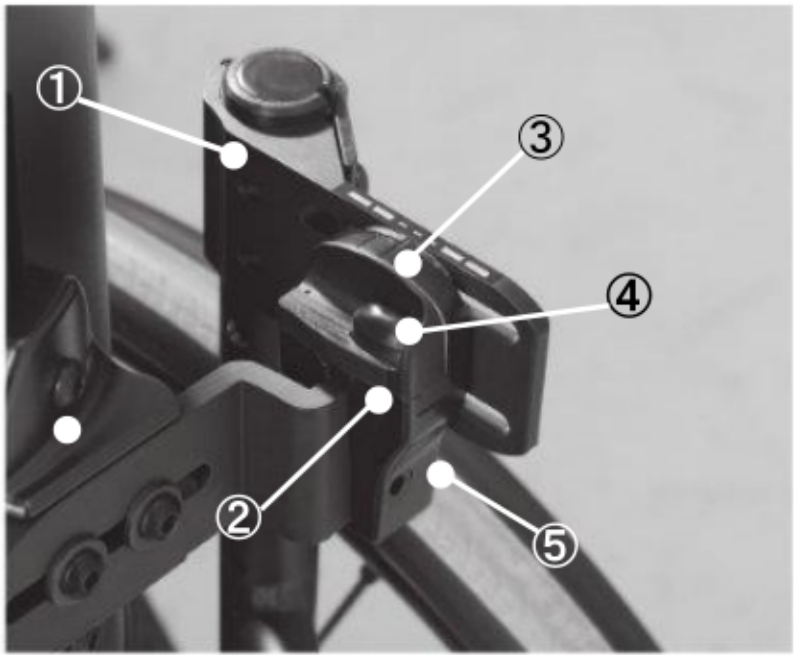
© 2013 Cascade Designs, Inc.

アイコン　バックシステム構成部分

取り付けや調節、ご使用の前に、バック・システムの各パーツの名前や機能を必ず覚えてください。

ケインハードウェア構成部品

①ケインブラケット
②ホルスター
③アジャスタープレート
④スライドキャップ
⑤パーマネントマウントホール



シェル構成部品

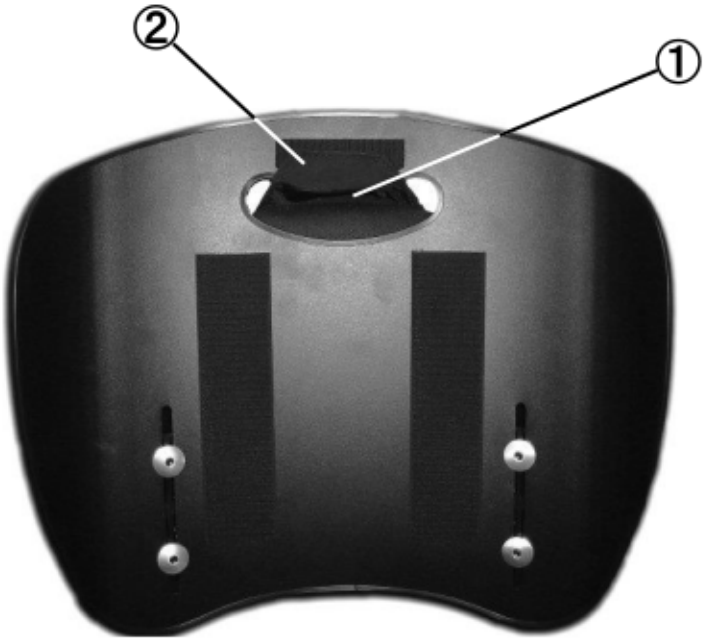
①シェルブラケット
②スライドブラケット
③ハンドル

© 2013 Cascade Designs, Inc.

アイコン　バックシステム構成部分

セルフインフレーティング（自動誇張）クッションとバルブ

＊エアークッションの内側に
硬さの違うウレタンフォーム
が張り合わされています。



シェル内側

①ハンドルフラップ
②ハンドルパッチ（面ファスナー付）

© 2013 Cascade Designs, Inc.

組立と取付け方法

取り付けを完了するには、車いすの横幅や深さ、角度、高さなどを調節する必要があります。

ユーザーが車いすに乗る前に、次の手順で取り付けてください。

1. 車いすで最適と思われるバックシステムの高さを決定して下さい。
2. ケインブラケットを左右の車いす背パイプに取り付けます。このとき、左右のホルスターが向き合うようにして、スライドキャップは後方へ開いている状態にして下さい。
3. 2本のケインブラケットが平行で、互いに水平になるよう、整列配置して下さい。それからケインブラケットのネジを軽く固定する程度に締めます。
4. スライドブラケットのネジを緩めて下さい。
5. バックを挿入して、スライドブラケットをホルスターにしっかりと合わせます。
6. ケインブラケットとスライドブラケットのそれぞれのネジを4.5ニュートンメートルまでしっかりと締めて固定して下さい。
7. 左右のスライドキャップをシェル方向にスライドさせて閉めて下さい。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

調節方法

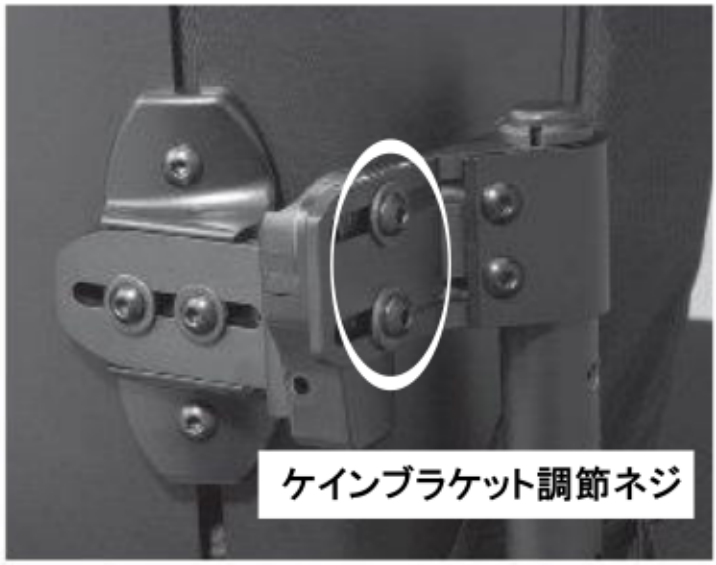
以下のステップは、ユーザーが乗車されている、いないに関わらず車いす上で行うことができます。

奥行きと角度調節

1. ケインブラケット上の調節ネジを緩めると、奥行きと角度調節ができます。調節ネジは、3/4回転ゆるめるだけで良いです。

   （注意）ナットが外れるまで、決してネジを緩めないで下さい。ケインブラケットとホルスターの間にスプリングワッシャーが挟まっています。スプリングワッシャーが外れると角度調節が固くなり、故障の原因になります。

2. ホルスター上面に、角度調節のために溝が掘ってあります。
   左右のホルスターの角度が平行になるよう参考にして下さい。



3. 調節ネジを完全に締める前に、左右の背パイプ上でのハードウェア全体を調節して下さい。
4. 調節が固定されるように、左右のケインブラケットの上の2本の調節ネジを充分に締めて下さい。

シェルブラケット横幅調節ネジ

1. 左右のシェルブラケット調節ネジ各2個を緩めて下さい。
2. シェルの側面の位置を調節してください。
3. シェルブラケットを固定するために、調節ネジを充分に締めなおしてください。

シェルブラケット上下調節ネジ

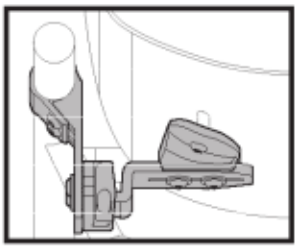
1. 各々のシェルブラケットの2つのネジを緩めて下さい。
2. シェルの位置を上下に調節できます。
3. シェルを固定するために、調節ネジを充分に締めなおしてください。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

座面の奥行調節

座面の奥行は、医学的な目的によって、あるいは背当ての傾きによっても多様に調節できます。
もっとも多いケースでは、アイコン　バックシステムのハードウェアを背パイプよりも後側に取り付けて座面の奥行が損なわれないように調節します。
また、このアイコン　バックシステムは、背当てを前に出す必要があるケースにもハードウェアを背パイプより前側に取り付けることで対応できます。

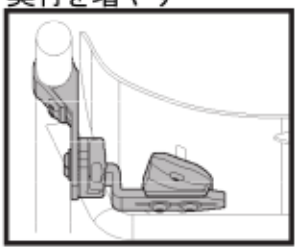
標準



ケインブラケット：後位置に取り付けます。
スライドブラケット：前位置に取り付けます。
体幹サポート表面の範囲：背パイプの後側から2.4インチ～0.9インチ(60.9mm～22.8mm)

＊背パイプの前面からシェルの中心までを測定
クッションの厚みは膨らみによって1.25インチから2.75インチ(31.7mm～69.8mm)

奥行を増やす

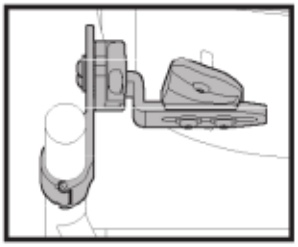


ケインブラケット：後位置に取り付けます。
スライドブラケット：後位置に取り付けます。
体幹サポート表面の範囲：背パイプの後面から3.9インチ～2.4インチ(99mm～60.9mm)

＊背パイプの前面からシェルの中心までを測定
クッションの厚みは膨らみによって1.25インチから2.75インチ(31.7mm～69.8mm)

標準設置したところから、左右のスライドブラケットをシェルブラケットから外し、左右のスライドブラケットを交換して、つまみ部分を上向きにした状態で後ろ位置に取り付けてください。

背当てを前に出す

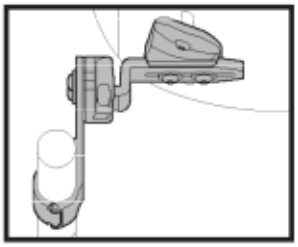


ケインブラケット：前位置に取り付けます。
スライドブラケット：後位置に取り付けます。
体幹サポート表面の範囲：背パイプの前側から0.3インチ～1.8インチ(7.6mm～45.7mm)

＊背パイプの前面からシェルの中心までを測定
クッションの厚みは膨らみによって1.25インチから2.75インチ(31.7mm～69.8mm)

標準設置したところから、ケインブラケットからホルスターを取り外し、左右のケインブラケットを交換し、車いすの背パイプに前位置になるよう取り付けます。次に左右のスライドブラケットをシェルブラケットから外し、左右のスライドブラケットを交換し、つまみ部分が上向きになるようにして、後位置に組み立てます。ここでホルスターをケインブラケットに取り付けますが、必ずスライドキャップは後方に開けられるように取り付けて下さい。

背当てを更に前に出す
（奥行を更に減らす）



ケインブラケット：前位置に取り付けます。
スライドブラケット：前位置に取り付けます。
体幹サポート表面の範囲：背パイプの前側から1.8インチ～3.3インチ(45.7mm～83.8mm)

＊背パイプの前面からシェルの中心までを測定
クッションの厚みは膨らみによって1.25インチから2.75インチ(31.7mm～69.8mm)

標準設置したところから、ケインブラケットからホルスターを取り外し、左右のケインブラケットを交換して、背当てを取り付ける部分が前位置になるように、車いすの背パイプに取り付けて下さい。次にホルスターをケインブラケットに取り付けますが、必ずスライドキャップは後方に開けられるように取り付けて下さい。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

操作方法

アイコン　バックシステムの取り外し

1. ボタンを下に押しながら左右のスライドキャップを開けます。
2. シェルの上部をつかんで引き上げ、ホルスターからスライドバーを外します。
3. 左右のスライドキャップをシェル方向にスライドさせて閉めて下さい。

アイコン　バックシステムの挿入

1. ボタンを下に押しながら左右のスライドキャップを開けます。
2. スライドブラケットをホルスターの上に水平に揃えます。
3. スライドブラケットをホルスターに挿入して下さい。
4. 左右のスライドキャップをシェル方向へスライドさせて閉めて下さい。

パーマネントマウントの取り付け（アイコンバックシステムを固定してお使いになる方の場合）

1. スライドブラケットがホルスターに挿入された状態で,左右のスライドブラケットのネジを緩めて下さい。
2. パーマネントマウントホールに3/32インチの六角レンチを使い,パーマネントマウントネジを取付けます。この時ネジはパーマネントマウントホールの穴を通してからスライドブラケットを固定して下さい。
3. 左右のスライドブラケットのネジを締めます。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

バッククッションの取扱い方法

クッションの膨らませ方

1. クッションを膨らませるために、クッションにかかるすべての荷重を取り除いて下さい。
2. エアーバルブを反時計回りにまわし、クッションを自動的に膨らませて下さい。
3. 充分クッション内に空気が入りましたら、エアーバルブを時計回りに締めて下さい。

クッションの調整

1. 調整は、クッション内に充分空気が入って、エアーバルブが閉じている状態から始めてください。
2. ユーザーが静かにに安全に車いすに座ってバッククッションに体重をかけてください。
3. 反時計回りにエアーバルブをまわし、クッション内の空気を放出して下さい。
4. ユーザーが快適に感じる、そして機能的に適合している状態になりましたら、エアーバルブを締めてください。

クッションの着脱

1. シェルからクッションを取り外すときは、シェルからクッションを引き上げて下さい。
2. カバー上端のハンドルフラップが、面ファスナーでシェルのハンドルについています。（ハンドルパッチ）そこを剥がすとクッションが取り外せます。
3. カバーのファスナーを開き、クッションが取り出せます。

〇クッションをシェルに取り付けるには、1.2.の逆の動作をして下さい。
（ご注意1）：取り付けるときに、ハンドルフラップの向きを間違えないで下さい。
（ご注意2）：使用中、クッションはユーザーの荷重で下方に押されます。実際に使用する位置より、若干上方にシェルに取り付けてください。

胸部サポートの説明

体幹パッド（胸部サポート）の取り付けは、その取扱い書に従ってください。

もしオプション製品の「パル」をご使用される場合は、シェルの縦溝またはシェルにドリルで穴をあけてご使用下さい。

〇アイコン　バックシステムのシェルに、体幹パッド「パル」及びヘッドサポートを取り付けるためのドリルで穴を作る行為は保証の範囲内です。

© 2013 Cascade Designs, Inc.

トラブルシューティング

アイコン　バックシステムは、着脱するときに滑らかに動くはずです。
もし着脱時に固まってしまう、スムーズに動かないなどの問題がある場合は、下記の調整を確認して下さい。

1. ケインブラケットをチェックして下さい。高さ、奥行き、横幅は同じでしょうか。それぞれのネジを緩めて調整して下さい。
2. スライドブラケットの左右の長さはホルスターの溝にあっているでしょうか。横幅もネジを緩めてチェックして下さい。

3. 左右のホルスターの角度は同じでしょうか。調節ネジを緩めてチェックして下さい。
   ケインブラケットの上側のネジで角度を調整しますが、このネジは3/4回転まわして角度を調節して下さい。

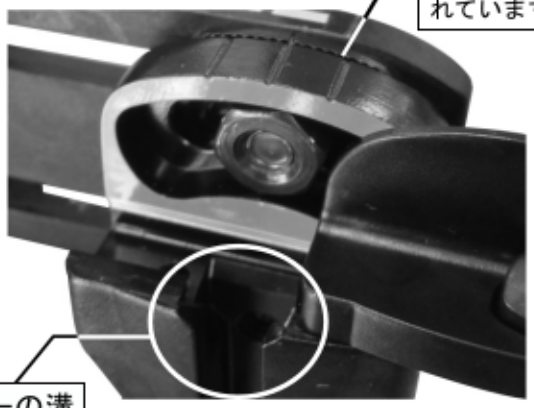
4. 上記を調節しても、スムーズに着脱できない場合は、下記方法もお試し下さい。

ご使用されていると、ホルスターの溝がだんだん汚れてきます。取り外しがスムーズに行かないときは、無理に引っ張りあげずに溝をきれいに掃除し、粘度の低い油を溝にさして下さい。

スライドブラケットの調節ネジは3／4回転させて、角度、奥行き調節してください。

けっして、それ以上回転させてホルスター側にあるナットを落下させないで下さい。

ホルスターの内側には、スプリングワッシャーが挟まれています。このスプリングワッシャーが、角度調節をスムーズにします。このスプリングワッシャーを紛失すると、調節がスムーズに行かなくなるだけでなく、破損の原因になりますのでご注意下さい。



© 2013 Cascade Designs, Inc.

お手いれ方法とメンテナンス

●アルミ製のシェルは、石鹸と湯水で洗浄できます。ただし、水の中に漬けて、放置しないで下さい。アルミの腐食に気をつけてください。また、シェルのエッジに付いた水分はきれいにふき取ってください。保護のためにつけている周囲のエッジ環※の接着力が落ちます。

●自動で膨らむクッションは、濡らした柔らかい布で拭いてください。

●クッションカバーは、クッションから外して洗えます。
洗濯機で丸洗い、脱水ができます。ただ、複合素材ですので、洗濯ネットに入れて、弱水流で洗ってください。内側のエアーフィルターの破損を防ぐために、脱水は１分から２分位にして下さい。洗濯後、風通しの良い日陰で、裏干しで乾燥させてください。
乾燥機での乾燥は、複合素材の変形を起こしますのでお止め下さい。

●あなたのアイコン　バックシステムを極端に暑い条件下または直射日光への露出で、長い期間放置しないで下さい。

●危険ですので、あなたのバッククッションの上に鋭利なものや重いものを乗せないでください。

●少なくとも１週間に１度は、クッションのエアーバルブを開放しますと、クッションが膨らみやすくなります。夜、就寝されるときなど、未使用時に朝まで開放されますと自動膨張がスムーズになります。

※注意）アイコンバックシステムのシェルには、ご利用者様のお体をシェルのエッジより保護するためにプラスチックのエッジ環が貼り付けられています。このエッジ環はシェルの加工等される際にはずし加工後に再度新しいものを貼り付けることが可能です。ご不明な点はお問合せください。
また、このエッジ環はご使用されてからある程度期間が過ぎると、シェルから離れ浮いてくる可能性がございますが再接着も可能です。その際は専用接着剤（アロンアルファ・ハイスピードEX等）で新しいエッジ環を貼り付け直すことも出来ます。（2～3cm間隔で1滴ずつ接着すると良いでしょう）

© 2013 Cascade Designs, Inc.